あなたの声を市政に 地区懇談会

問い合わせ　自治振興課☎59-2142

自治会連合会は、住みやすい地域づくりを実現するため、まちづくりについて、市長と直接話し合う「地区懇談会」を開催しています。

平成24年度に開催した8地区のうち、今月は3地区の内容（一部抜粋）を紹介します。

また、平成24年度は、各地区の身近な課題やまちづくりについて、参加者が自由に意見を交換する新たな試みをしました。意見交換は、市の若手職員がファシリテーター（進行役）として参加し、各地区とも活発な意見が交わされました。

小島地区（平成24年8月1日 コミュニティサロン栄町）

JR大竹駅東口広場の整備計画について

問

先日、中国新聞に大竹駅周辺整備の記事が掲載されていましたが、大竹駅東口広場の整備計画、完成目標年度などについて説明してください。

答

JR西日本と橋上駅舎化について協議する中で、「事業協力にあたっては、市として大竹駅周辺をどのようなまちにしようとしているのか、〝まちづくり構想〟が必要である」とのことであったため、市民アンケート結果や、わがまちプラン（第五次大竹市総合計画）などの上位計画、社会動向、大竹駅周辺整備の課題などを踏まえ、「大竹駅周辺整備新構想」をまとめました。

基本コンセプト	すべての人が利用しやすく、住みやすいまちへ～「交通・賑わい・シンボル・生活・交流」拠点づくり～
大竹駅周辺のまちづくりの目標・基本方針	①東西に分断されたまちの一体化・回遊性の向上
	②駅及び周辺空間のバリアフリー・ユニバーサルデザイン化
	③駅及び周辺空間の賑わいづくり、魅力的で便利な生活拠点づくり
	④交通拠点・交通結節点としての機能の改善・向上
	⑤交流・憩い空間の創出と魅力的な景観形成

大竹駅東口広場整備事業は、この「大竹駅周辺整備新構想」に基づき、今後、JRとも協議しながら、駅舎の橋上化と、これに伴う自由通路の見直しを進めていきます。

また、JR貨物用地への進入路の代替となる道路の用地買収と工事を平成26年度までに完了させます。そのほか、自由通路・橋上駅舎の建設は平成29年度までに、東口広場の整備は平成30年度を目標として取り組んでいきたいと考えています。

まちづくりについての意見交換の場で交わされた主な内容

地域活性化について

○三菱レイヨン㈱社宅跡地を市がサントピアの駐車場として購入してはどうか。

○栄ぐるりんバスを実証運行している。サントピアの駐車場を整備するより、栄ぐるりんバスを上手に利用すべきである。

○さかえ公園に、若い人が思い切って体を動かせるような場所を作ってはどうか。

○公園は制約が多いので、さかえ公園に、子どもが自由に遊べるようなスペースを作ってはどうか。

安全・安心対策について

○4月の三井化学㈱の爆発事故のときに、何の連絡も無かった。みんな不安なので、まずは状況を自治会長に連絡すべきである。

○消防の車はスピーカーが2方向しか付いていないので、内容が聞き取れない。

港町地区（平成24年11月1日 港町一丁目集会所）

車の騒音について

問

大竹IC出口で、岩国方面に向かう車の中には、国道2号に出ないで手前で右折し、信号のない元木野川紙業㈱と中川製袋㈱の間の道路や、小方交番と若林モータースの間の道路から国道2号に抜ける車が多く、騒音に迷惑しています。何か対策はないですか。

答

対策としては、国道2号の手前を「右折禁止」にしたり、国道2号に抜ける道路を「速度制限」や「時間限定の乗入禁止」などにしたりすることが考えられます。これらの規制を設ける場合は、公安委員会との協議が必要になります。

しかし、こうした通行規制は、沿線住民の方も遵守しなければならないので、沿線住民の方のご理解とご協力が必要になります。沿線住民のすべての方のご理解が得られるのであれば、地元自治会を中心に、地域の方と話合いを持ちながら進めたいと考えています。

防災について

問

港町一丁目は防災放送が聞こえないため、いざというときの対応ができません。対策はないのでしょうか。

答

防災放送（防災行政無線）への同様の意見は、他の地区からも寄せられています。現地調査を行い、スピーカーの交換や向きの調整で対応している場合もあります。昨今の高気密な住宅では遮音性が高いため、チャイムが鳴ったら窓を少し開けるなどの対応もお願いします。

なお、防災放送の情報伝達能力を補うため、放送した内容を電話回線を利用して確認できるサービスの準備を進めているところです。

※　防災放送の内容確認サービスは、4月1日から運用を開始しています。防災行政無線テレホンサービス（☎59-0010）

問

家屋の耐震測定や火災報知機などの取付確認、屋内配線の漏電チェックなどについて、市はどのように考えていますか。

答

市広報を活用した防災・減災に関する情報は、定期的に提供したいと思います。市は、建築物の耐震診断・耐震改修を促進することを目的とした「大竹市耐震改修促進計画」を策定しました。「自らの生命・財産は、自らが守る」ことを原則に、本計画に基づき、地震ハザードマップの作成・公表や情報提供の充実、耐震診断・耐震改修工事の一部補助を行っています。住宅用火災警報器は、取り付け確認のために一般住宅の中に立ち入ってまでは確認しません。今後も住宅用火災警報器の設置率100パーセントを目指し、さらなる啓発をしていきますので、ご理解ご協力をよろしくお願いします。屋内配線の漏電チェックは、中国電気保安協会が、中国電力㈱から委託を受けて定期的に実施し、電気の安全な使い方などのパンフレット配布や電気に関する相談に応じています。

消防では、コンセントに関する注意喚起を実施しています。「タコ足配線」は配線に負荷がかかり、やがて火災になります。また、コンセントに長年差したままだと、プラグの差し刃とコンセントの間に埃がたまり、火災になる事例が全国でも多数あります。今後も電気火災が起きないよう、広報紙などでPRしていきます。

まちづくりについての意見交換の場で交わされた主な内容

人口増対策について

○もっと大竹のことを情報発信してはどうか。

○市有地を安く売り出してはどうか。

○文化施設を充実させることが必要ではないか。

三ツ石・御園地区（平成24年11月15日 三ツ石会館）

通学路について

問

小方学園の通学路についての考え方を教えてください。

答

小方ケ丘に学校を移転することから、現在の通学路を変更することとなります。現在、小学校とPTAが新しいルートについて協議しています。教育委員会としては、子どもたちがより安全に通学できるルートを選定できるよう、学校やPTAと連携していきたいと考えています。

県道117号（乙瀬小方線）の歩道について

問

三ツ石橋付近から御園にかけての県道117号の歩道は、幅員が狭く、舗装面が凸凹になったり、傾斜したりしている状態で、外灯も暗い状況です。改良をお願いします。

答

県道の歩道は、市が県から委託されている修繕対応範囲を超えることから、県での改善をお願いしているところです。暗い外灯は、適宜、維持修繕します。

歩道の舗装改良について

問

歩道の路面が荒れていて危険です。団地内の視覚障害の方からも危険との声があります。以前にも申し入れましたが、その後の進捗状況を教えてください。

答

歩道舗装の路面状況が悪い箇所は順次改善していますが、すべての箇所は対応できていません。御園地区内は、今年度は新陽台の歩道舗装を改善しました。今後も、舗装状況の悪いところから順次改善したいと考えています。自治会の方からの助言をいただきながら優先箇所を決めたいと考えています。

まちづくりについての意見交換の場で交わされた主な内容

JR小方新駅について

○駅から国道2号へ接続する道路を整備することにより、いろんな土地を有効活用できるのではないか。

○駅ができて広島や岩国に通勤などができれば、若者にも選択されるまちになるのではないか。

○若者に安く土地を提供することで、定住促進につながるのではないか。